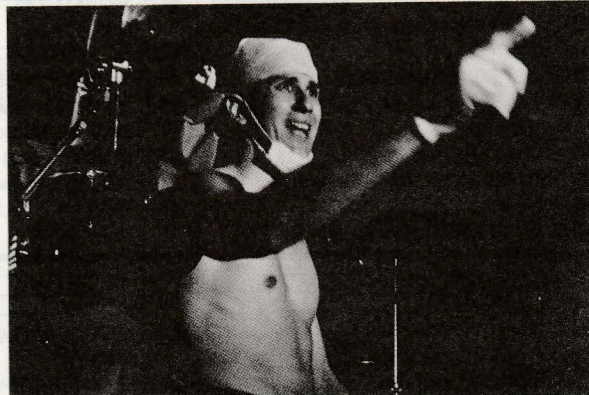


# SADATO(真人)

New Face とは言えないかも知れないが、興味ある人を紹介しよう。

1953年スイス生まれ。後に西ドイツ、ハンブルグに移り、ハイスクール卒業後日本へ。'78年頃より本格的活動に入る。頭初はフリージャズの形態をとり、'83年にはモントルー・ジャズ・フェスティバルの出演も果たしている。昨年は東京ラ・ママ、クロコダイルを中心に活動を行い、オフマスク00等とも共演している。現在ライブは不定期ではあるが、自らのプロデュースにより、万全を期している。そのライブ、音の様子は毎回、事あるごとにスタイルを変え、ある時はジャズ、又ある時はロック、そして民族音楽と客を裏切り続けている。彼の言葉によると——「マイティ・メディア」のコンセプトの元、ステージ上をトータル・アートとして演出し、舞踏等、音楽以外のものを取り入れる。そして天才からバカまでの解釈を許容するメッセージと、その演奏フィールドを持つ。ということだ。

そして KAMPAI(乾杯)レコードを設立し、本年2月「ALEF」として1st LP「初」をリリース。又 KAMPAI レコードはプロモーターとしても機能し、昨年はロスのジャズミュージシャンを、そして本年4



月にも外国ミュージシャンを招いてのツアーを予定している。と、多方面に才能を発揮している彼だが、それも、各方面の人々(フォトグラファー、アートデザイナー等)のバックアップなしには成し得なかったことである。彼はそんな人々のシンボルとなっている。問合せ ☎03-565-3627 KAMPAI レコード

Doll 4/88

## JAZZ Critique (87/11/20) No. 59



⑪

57号で紹介したエマヌエルのマーチン・デビッドソン氏より、同レーベルの新譜が送られてきた。同記事でも登場するアルバムのベニー・マクガンの二作「アット・ロング・ラスト」(3601)⑫と「キング・レッド・スピリッツ」(3602)だ。



⑫



⑬

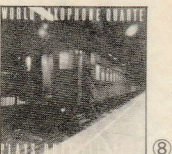


⑭

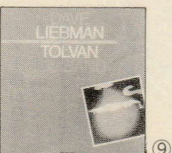
5016)がある。ドイツというと、真人(サダト)は生まれはスイスだが国籍はイラン、でもってドイツでの活動歴をもつミュージシャン。そのアルバム「初(はじめ)」(カンパイ・レコード、KR-11)⑫をきくと、パンク的志向をもつがコンセプトチュアルな意味で編集作業がきざとれる。日本風を前面に出しているが、そのデフォルメされたものは、何かしら挑発的な意志を感じさせる。このレコードは六本木 WAVE 同内ストアデイズ、デイス・クニオン全店、帝都無線全店、吉祥寺デイス・イン No.2、渋谷タワーレコード、くしゃみで発売している。なお、サダト本人からも購入可(〒116-1 東京都新宿区中井2-28-29 宝荘サダトまで)



⑦



⑧

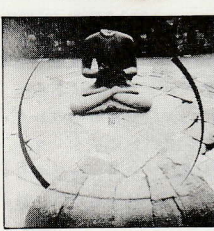


⑨



⑩

このアルバム、確かにマーチン氏のいうとおりマククリン、オーネットも想起させるが、つきはぎのエビゴネットではない独特の音楽である。復帰したフランク・モーガンの新作はピレンツァ・パンガルドにおける86年暮れのライブ「ピバップ・リブズ」(ピクチャー・音産)©VDJ11093 (LVIJ-28124)⑭だ。松本英彦の音楽生活40周年を記念して行なわれたコンサート(今年8月)の実況盤が早くも発売、「4イヤーズ・アニバーサリー」(BMGピクチャー)旧RVC ©R32H11059 (DRHL18475)。山下洋輔、ジョージ川口、鈴木彰治他、ゲストも多彩。自主レーベル、トントンカッツ、レーベルから「今津雅仁&ザ・サックス・アピール第一集」(KT1589)という興味深い一作が登場。アモンズに傾倒、モブレイに憧れるという今津のテナーはタフで、アーシーなスタイル。全曲今津のオリジナルというからおどろく。スタイルをう



### ALEF Hajime

KAMPAI RECORDS KP 1

いわゆるガイジンから見るニッポンとは、何ともグロテスクに映るらしい。イラン国籍のサダト (Saxes, Voice, Action...) 率いる ALEF の音楽には痛烈な批判精神とユーモアが感じられる。日本人以上に日本人の心を持つ剣道6段のサダト(真人)の自由奔放な姿勢は、ここにある音楽がノン・カテゴライズド・ミュージックであることに表れている。フリー・ジャズ、インプロヴィゼーション、ロック等のイデオロギを自在に操り、時には「サラリーマン死ね」と威嚇する。これもサダトの人間愛だろう。(小泉)